

(1) 学校図書館について

Q1-1	学校図書館司書の勤務時間を拡大してほしい。	A1-1	学校図書館司書の勤務時間については、第1次計画策定時は全校配置されていなかったところから、全校配置を達成しました。今後も、勤務時間等の改善に努めます。
Q1-2	学校図書館司書を一校に一人配置してほしい。	A1-2	
Q1-3	素案39p事業110、「学校図書館の開館時間の確保に努める」の文言について、新規の事業ならもっと具体的かつ積極的な言葉で表現してほしい。	A1-3	「学校図書館の開館時間の確保に努め、子ども達の読書活動推進につなげていきます。」に改めます。

(2) 事業について

Q2-1	素案26p事業3の、「家庭読書を普及させる」ための具体的方策はどういうことを考えているのか。	A2-1	市立図書館で行った家庭読書の本の展示のほか、家庭読書におすすめの本のリストを公開したり、リストを関連施設に配布するなどして、家庭読書の大切さをPRしていきます。
Q2-2	素案p.21について、「学童クラブ」を入れても良いのではないかと。	A2-2	3つの基本方針(2)の、子どもにとって身近な環境である具体的施設として、「学童クラブ」を追加します。
Q2-3	事業61などでの「団体貸出」は学校を対象としたものなのか、明示してほしい。	A2-3	事業主体に「学校」を追加します。
Q2-4	保育園、幼稚園等の施設利用者以外でも使えるという施策はないか。	A2-4	施設利用者以外でもご利用いただけるよう、ブックセットは図書館や児童センター、子育て支援センターでも利用できるようになっています。

(3) 指標について

Q3-1	指標について、年度末に新型コロナウイルスの影響があった令和元年度のデータを採用しているのはなぜか。	A3-1	新型コロナウイルスの影響がない直近の年度は3年前の平成30年度のデータとなり、現在のデータと乖離するため、比較的影響の少ない令和元年度のデータを採用しました。
Q3-2	指標⑤の目標値は適切なのか。数値の根拠はあるのか。	A3-2	指標⑤団体貸出の目標値を児童書のみに見直し、第2次計画終了時の学校児童生徒数が1.3倍となるため、令和元年度の児童書貸出数実績13,847冊の1.3倍である18,000冊に修正いたします。
Q3-3	指標⑤における「団体」は、小中学校なのか、幼稚園や保育園も含まれるのか、決める必要がある。	A3-3	小中学校だけではなく、幼稚園、保育園も含まれます。指標⑤は団体貸出数の児童書のみ限定して設定します。
Q3-4	貸出冊数や利用者数のデータに拠らない指標があっても良いのではないか。	A3-4	読書に関する興味・満足度としまして、指標③「読書が好きな児童・生徒の割合」が当てはまります。
Q3-5	保護者、子どもたちへの読書活動の啓蒙をどうしていくか、具体的な提案が必要。	A3-5	事業21の家庭読書では、家族みんなで読書をすることにより、読書の楽しさや大切さを啓発するねらいがあります。事業7、22、30、31等も読書啓発活動にあたります。
Q3-6	個人による目標設定とその確認のような仕組みはできないか。	A3-6	ホームページで作成できるブックリストや、「どくしょつうちょう」「読書手帳」の活用を促進していきます。

(4) おおたかの森こども図書館の目標値について

Q4-1	人口が増加した分数値が増えたものではないか。人口増加を意識して設定されているのか。	Q4-1	資料②「素案p.12おおたかの森こども図書館の目標値について」にて、0～18歳人口に対する実績を記載しています。
------	---	------	--